

北海道における緑肥作物の 特性と栽培のポイント

緑肥作物として求められる特性

- 生育が早いこと。
- 栽培しやすいこと。
- 緑肥収量が多いこと。
- 土壌中で分解しやすいこと。
- 土壌病原菌・害虫の抑制力が大きいこと。

上記の特性を具備した主要緑肥作物

◎エンバク「ヘイオーツ」

ジャガイモやその他野菜の収穫跡地やスイカ・メロン等の間作に好適。

ヘイオーツの特性：

- 短期間に多収が期待できる早生品種。
- 茎数多く、稈は細い。

播種量：10～15kg / 10a

施肥量：N-4, P₂O₅-4, K₂O-4 kg/10a程度
(状況によっては減ずる)

◎ソルゴー「グリーン」

高温生育性が良好で、ハウス内の緑肥作物として好適。

露地栽培にも適し、センチウの減少に効果が大きい。

播種期：5月下旬以降（晩霜に弱い）

播種量：5～6 kg / 10a

施肥量：N-10, P₂O₅-10, K₂O-10kg/10a程度
(状況によっては減ずる)

緑肥作物栽培によるネグサレセンチウの増減
(熊本農試園芸支場)

作物	部位	土壌(幼虫)①		生根②		染色根③	
		7月20日	10月26日	(幼虫)	成虫	幼虫	
トウモロコシ(15品種平均)		86	437	133	51	28	
グリーンソルゴー		142	36	1	8	37	
流通品種S		80	150	107	25	83	
ハイスーダン		88	40	6	29	30	
ハイブリッドソルゴー		104	44	1	12	71	

- ① 乾土30g当り頭数
- ② 生根5g中のベルマン分離幼虫
- ③ 酸性フクシンラクトフェノール染色による根0.5g中の検鏡個体数

エンバクの緑肥栽培試験

(雪印種苗・中央研究農場(昭和58, 59年))

品種名	草丈 (cm)	1m ² 間の 茎数	生草収量(kg/10a)			
			地上部	地下部	全体	同 比
ヘイオーツ	79	891	4,279	740	5,019	128
前 進	94	375	3,447	483	3,930	100

(播種日：8月10日, 収穫日：10月18日)

◎アカクローバ「緑肥用」「ハミドリ」

小麦の畦間に播種し、小麦収穫後もアカクローバの緑肥栽培を行う。

播種期：早春

小麦の刈取後、追肥を行なって増収を図る。

秋播小麦への間作緑肥アカクローバの品種比較(中央農試)

品 種	草 丈 (cm)	地上部生草重 (kg/10a)	同左風乾重 (kg/10a)
ハミドリ	33.3	1,733	286
メジウム	32.7	1,073	188

ハミドリは地上・地下部合計でおよそ2.5t/10aが見こまれ、緑肥効果が大きい。

◎イタリアンライグラス「ビリケン」

菜豆、早～中生の小豆等、落葉期の早い豆類の畦間に播種し、豆類収穫後も緑肥栽培を行う。

ビリケンの特性：

- 生育早く、茎葉巨大の一年生牧草。
- 中播き等弱光条件下で抜群の生育。

播種期：7月下旬～8月上旬

播種量：3 kg / 10a

施肥量：N-4, P₂O₅-4, K₂O-4 kg/10a程度